

## 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立神石小学校  
校長 森 広 樹

中学校区におけるめざす子ども像  
「自ら課題を見つけ 仲間とともに 未来を創り出す子ども」の育成

**令和7年度 重点目標**  
**【学校教育目標】** やる気・やさしさ・笑顔いっぱい とともに学び合う神石っ子  
**【めざす学校像】** カラフルな学校 教職員も子どもも活力に満ちていて通うのが楽しい学校 (児童が通って良かったと思う学校・保護者が通わせて良かったと思う学校・教職員が勤めて良かったと思う学校)  
**【めざす子ども像】** 気づく子 考える子 ふりかえる子 (判断する力と実践力をもつ、心豊かでたくましい子ども)

<p><b>「確かな学び」の現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童は落ち着いて学習に取り組む姿勢ができており、活気のある学校生活を送っている。</li> <li>○自ら進んで挨拶する、ルール(低学年)やマナー(高学年)を守る、誰もが笑顔になる行動をするという神石っ子3つの約束を周知し、落ち着いた環境の下、児童全員が安心して学びあい、高めあえる学校環境づくりを行っている。</li> <li>○基礎学力の定着を目標に、児童の学びの実情にあった個に応じた指導方法の工夫や1人1台のタブレットを効果的に活用するICT教育の推進に積極的に取り組んでいる。</li> <li>○児童が自分の考えを分かりやすく伝えることを前提に、異なる考えをもとに自分の考えを導き、よりよい学びを生み出す指導方法の工夫を図り、学びを実生活で活用できる学力(生きる力)の育成をめざしている。</li> </ul>	<p><b>「豊かな心・健やかな体」の現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年から学校教育目標を軸に、「やる気」「やさしさ」「えがお」の一層の充実をめざして教育活動を行っている。</li> <li>○児童と教職員との関係は良好で、楽しく学校生活を送っている児童が多い。学校アンケートでは、教員が子どもの頑張りを評価しているの児童の回答は83%であり、児童から厚い信頼を受けていることが分かる。</li> <li>○支援学級児童の在籍数が多い現状を踏まえ、授業のユニバーサルデザイン化、インクルーシブ教育の推進を図り、一人一人の子どもを大切に、共に学び共に生きる教育活動に取り組んでいる。</li> <li>○「健やかな体の育成」については、睡眠時間の確保など基本的な生活習慣の定着に課題が見られることから、家庭への啓発を行うとともに、児童自身の自律(生活習慣・学習習慣)を促す活動に取り組んでいる。</li> </ul>
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	主体的に学ぶ子どもの育成	子どもが自らの学びを振り返るための深い学びの推進を図る	★学習規律と学習習慣(家庭学習)を含むを確立し、基礎基本の定着を図る。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	学校アンケート	2学期末	△ ★肯定的な回答が目標値の80%となった。日常的な声掛けや学習の見通しを持たせる取り組みが定着につながっていると考えられる。一方で十分に定着していない児童もいるため、個に応じた支援を継続していく必要がある。	○ 肯定的な回答は、83%であり、目標を達成したことから、取り組みは概ね有効であったと自己評価する。特に、見通し提示とふり返り活動の継続的実施が、学習習慣の形成に寄与したと考える。今後は全体の底上げを図り、より高い達成度を目指したい。	○ 授業参観では、落ち着いて学習する様子が見受けられた。学習規律はできつつあると感じる。家庭への協力を求め、家庭学習の習慣を持たせることが必要。
			●ICTを活用した授業展開を行い個別最適な学びを推進し、だれもが主体的な学びに向かう授業を行う。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	ICT活用についてのアンケート	2学期末	△ ★肯定的な回答が、目標値を上回る83%となった。ICTの活用により、思考の可視化や学習進度の調整が可能となり、児童が主体的に学びに向かう姿が見られた。一方で、十分な実感を持っていない児童もいるため、活用方法の精選などが課題である。	○ 肯定的な回答は、83%となり、目標値を達成することができた。ICTの活用による思考の可視化や学習進度の調整は効果的であり、児童が主体的に学びに向かう姿の育成につながっていると評価する。	◎ 継続して散り組んでいることで、ICTの活用技術は向上していると感じる。高学年では使いこなしている児童もいる。引き続き、取り組んでいただきたい。
			ふり返りの充実(「何ができるようになったのか」「なぜできるようになったのか」のメタ認知の向上)	自分の言葉で明確に表現することができ、自分の成長や変化をとらえることができる。	授業ノート分析 ワークシート分析	各学期末 研究授業後	△ ふり返りを書く意欲はあるが、語彙も乏しく、自分の言葉で明確に表現することが課題である。しかし、他者の意見や考えと自分の考えを比べることができている。	○ ICTを使ったふり返りでは、他者参照することで自分の考えを深めることができた。今後の取り組みは、ふり返りの型を2学年単位で考え、2年間の積み重ねで自分の学びを定着させたい。	○ 授業後にふりかえりを行うことはとても重要だと感じる。引き続き、取り組んでいただきたい。
授業改善		子どもが自ら学びをすすめる授業の実現に向け、チームとして授業力向上に取り組む	教科の本質にせまるために、「授業・学習環境・児童理解の充実」の視点からの授業改善を行う。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。 市の平均 ±0か +ポイント	授業アンケート 堺市学調査の分析	2学期末	○ 授業規律の確立では肯定的な回答100%であった。個に応じた指導を行い、共に学ぶ教育に取り組んでいる教員は89%で、児童理解の充実の視点からの授業改善の意識は高い。	◎ 各学年1回の研究授業を行い、夏季研修(授業改善)でも自己研鑽を行った。研究、児童理解、環境の3つのプロジェクトの観点から授業改善に取り組んだ。	◎ 教員が前向きに授業研究に取り組んだことが良く分かる。引き続き、授業研究を大切にしていきたい。
			●授業のUD化を推進し、すべての子どもに個に応じた指導を推進する。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	学校アンケート	2学期末	○ ★肯定的な回答が、88%であり、目標を十分に達成した。が学習の見通しの明確化、視覚化資料(モデル動画)の活用、選択肢の保障などのUDの視点を取り入れた授業改善が、誰もが学びやすい環境づくりに効果を上げていると考えられる。	◎ 授業のUD化と個に応じた指導の取り組みは概ね有効であり、児童が安心して学習に参加できる環境づくりが着実に進んでいると自己評価する。今後は取り組みの質をさらに高め、すべての児童の学習保障の充実を図ってきたい。	◎ 誰もが分かる授業というのが良い。引き続き、取り組みを進めていただきたい。
豊かな心・健やかな体	豊かな心	自尊感情を醸成し、自他ともに大切に する豊かな人間性を育成する	●いじめについての正しい知識をもたせ、いじめを許さない態度を育てる。	アンケートで肯定的な回答が90%を超える。	学校アンケート	2学期末	○ 児童の各学期のアンケートでは、大きく目立ったことはないが今後も継続して啓発に取り組んでいく必要がある。	◎ 児童向けのアンケートでは+7Pの97%の児童が肯定的な回答だったことからいじめを許さない学校づくりはできている。一方で保護者アンケートでは、肯定的な回答が約60%、あてはまらない。(どちらかと言えども含む)が残りの約40%だったことから来年度は児童にも保護者にも啓発していく必要がある。	◎ いじめ防止に向けて、学校がしっかり取り組んでいることが良く分かった。それが保護者に上手く伝わっていないのが残念。保護者への啓発も含め、引き続き、取り組んでいただきたい。
			●あいさつについての指導を重点に置き、継続的に取り組むことで、あいさつができる児童を育てる。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	学校アンケート	2学期末	○ あいさつ指導や下校の児童の様子を見ると年度当初から少しずつあいさつができるようになってきている。引き続き、継続してあいさつ指導を行っていく。	◎ 児童アンケートでは+3%で、あいさつができる児童は概ね育っていると考える。一方保護者アンケートでは本校児童はあいさつができているのは約30%の結果から、教員だけでなく地域の方などへのあいさつも啓発していく必要があると考える。	◎ 子どもたちは地域でもよくあいさつをするようになってきている。大きな声で、気持ちよくあいさつする子どもが増えている。家庭でのあいさつの重要性を周知したらどうか。

の 育 成		●学校のきまりを全職員が共通理解し、児童に継続的に発信し続けることにより、規範意識の醸成を図る。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	学校アンケート	2学期末	○	全職員が意識し、児童に継続して発信することができている。引き続き継続して指導を行っていく。	◎	児童アンケートでは、命の大切さや社会でのルールを守る大切さを教えてくれるの項目では、+16Pの96%と肯定的な回答が得られた。	◎	引き続き、取り組んでいただきたい。
		道徳の授業、人権学習を通して、自分の考えをもつ大切さ、より良い生き方についての学びを深める。	学習参観で1回は道徳の授業を行う。アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	学校アンケート	2学期末	○	全学年、参観日での道徳の実施済みである。道徳の授業が児童にとってより良い時間になるように日々取り組んでいく。	◎	全学年、参観日で道徳の授業を実施した。児童アンケートでは、道徳の授業に対する児童の評価が+12Pの92%だったことから児童にとって道徳の授業が有意義な時間になっていることが伺える。	◎	道徳の授業を大切にしていることが良く分かる。授業参観でも真剣に考えている姿が印象的だった。
健 や か な 体	運 動 に 親 し む 環 境 を 整 え 、 体 力 を 向 上 さ せ る	●基礎体力の向上および適切な生活習慣を身につける。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	学校アンケート	2学期末	○	体育や保健指導・学級指導を通して、体力の向上や適切な生活習慣の定着を進めている。	○	「体力の向上」に向けての意欲は、肯定率83%、「生活習慣」への意識は79%。来年度も体力の向上を図れる取り組みや、生活習慣を身につけられるよう保健の授業や学級指導を行っていく。	○	子どもの体力の低下を感じる。学校全体で、子どもたちの体力向上に努めていただきたい。生活習慣の定着は、保護者の協力が不可欠。
		●保護者の協力を得て、生活習慣や食生活を見直し、自らの生活について考える力を育成する。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	学校アンケート	2学期末	○	月1回の「いけんだより」の啓発や、栄養教諭からの食育の指導を行っている。	○	「毎日の生活の見直しについての肯定率は68%。来年度も保健の授業や学級指導、保健指導を行い、「いけんだより」など、保護者への啓発も行っていく。	○	子どもを通じて保護者の啓発を行うことも必要。継続して、授業や学級指導で生活習慣や食育の重要性を伝えてほしい。
地 域 協 働	信 頼 さ れ る 学 校	学校ホームページ、各種たよりを活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	学校ホームページの日々更新	学校アンケート	2学期末	○	学校ホームページの更新は毎日行っている。	○	保護者の分かりやすいの肯定率は85%だが、13%の否定率がある。発信内容に一層の工夫を加えたい。	○	HPの閲覧は定着していると感じる。保護者がより興味を持てるよう発信内容を工夫していただきたい。
		毎月の安全点検や避難訓練、緊急時の集団下校指導を実施し、安全安心な教育環境を整える。	アンケートで肯定的な回答が80%を超える。	学校アンケート	2学期末	◎	毎月全点検を行い、保健主事が用務担当職員と連携し、早期対応している	◎	保護者「災害対策・登下校」肯定率94%、児童「災害対策」95%、「登下校」93%。来年度も一層危機管理意識を高め、指導していく。	◎	校外避難やけがをした児童の搬送を想定した避難訓練など、取り組みは評価できる。震災集会の取り組みも継続していただきたい。

#### 校長から（年度末）

- ・授業改善を含め、児童の確かな学びに対する取り組みは一定の成果を上げている。授業のUD化を推進し、個に応じた学びを確保するとともに、グループ活動など協働的な学習も取り入れ、児童が主体的に取り組む授業の推進に努める。
- ・学校で学習意欲をもち、理解するが、学習内容を定着させるためには、家庭学習が必須。家庭の協力を得ながら、基礎学力の向上を図る。
- ・教職員だけでなく、児童へも大震災の講話などを通じて、防災意識をもたせ、自分の命は自分で守る（自助）、助け合う（共助）の意識を継続して育てていく。
- ・自分から進んであいさつができる子どもを継続して育てていく。

#### 学校関係者評価者から（年度末）

- ・学校がしっかり取り組んでいただいていること。それに伴い子どもたちが落ち着いてきたことが良く分かる。
- ・より大きな教育効果を上げるためには、保護者の協力が不可欠。保護者の協力が得られるよう、保護者への周知の仕方を考えていただきたい。
- ・学力の向上は大切だが、まず学習意欲を持たせることが重要。
- ・あくさつは年々よくなってきていると感じる。元気な声だけでなく、気持ちのよいあいさつをする子が増えてきた。継続して、あいさつの重要性を伝えていただきたい。